

# 『賢い人のように①』

'23/01/29

聖書箇所:エペソ人への手紙 5章 15-16節(新約 p.379)



パウロは、何度も何度も…、救われたクリスチャンたちに対して、言葉を変え、また、表現を変えて、「救われた者たちは、どのように生きていくべきか？」ということについて教えてくれています。例えば、それが、エペソ 4:1 では、『…その召しにふさわしく歩みなさい。』という言葉であり…、4:17 では、『もはや、異邦人がむなしい心で歩んでいるように歩んではなりません。』という表現です。また、5:1 では、『…ですから、愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。』と、命令形でもって訴えかけます…。5:8 でも、『あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。』と命じられてある通りです。そして、今日学ぼうとしている、15 節では、『賢い人のように歩んでいるかどうか、よく注意し…』なさいとあります。

いかがでしょう？ 皆さん？ …これでも、あなたは、「私はイエス様を信じて救われたのだから、今後も、自分の好きなように…、自分の生きたいように生きていくのだ！」とおっしゃいます？ …神様のみこころを無視したような生き方は、その人に祝福をもたらしません。神様の祝福とは、これまで、私たちが学んできたように、神様の与えてくださる愛や喜び、平安なのです。皆さん！ 実は、そういったものこそが私たちに1番必要なのではないのでしょうか？

…私たち人間は決して、物質的に満たされても、あるいは、健康であったとしても、神様の祝福無しには、決して、価値ある…、充実した人生を送ることができません！ …なのに、多くのクリスチャンたちは、救われた後もなお、神様の祝福ではなく、かつて、自分たちが救われる前に追い求めていたような、物質的な繁栄を願ってしまっています。…だから、聖書のみことばは、何度も何度も、繰り返し教えてくれています。「かつてのような…、異邦人たちのような歩みをやめなさい！ 神にならって、神様に喜ばれるよう生きていきなさい！」って…。

## 命題: 神から見て「賢い人のような歩み」とは、どのようなものでしょう？

かつての私たちは皆、生まれながらに永遠の裁きである地獄に向かっていました。それは、神が無慈悲であったから…、神が冷たかったから、ということではなく、私たちが罪を持ちながら、それを悔い改めようとはせずに、尚且つ、そういったことを好んで、行ない続けていたからです…。私たちの造り主であられる真の神様は、決して、そういったようなことのために、私やあなたを御造りになられたのではありません。私たちが、自分勝手に、他人の迷惑さえ顧みず…、何ものよりも、自分を優先して生きる…あるいは、自分のためだけに…、自分の満足のためだけに生きる…、そんなことのために、神様は、私たちが造ってくださったのではないのです！

私たち人間が造られた目的というものを…、パウロは、このエペソ 2 章で、このように教えてくれています。エペソ 2:8-10、『8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。9 行いによるものではありません。だれも誇るものがないためです。10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。』

みことばは教えます…、私や皆さんは、『神の作品』であるって！ 皆さんは、決して、偶然によって存在し、たまたま、生かされているのではありません。神様によって造られたのです！ 神の作品として…、造り主である神様に似せた存在として…。当然ながら、そこには、私たちが造ってくださった「神様の目的」があるのです！

神様は、そのような…、かつては、神に背き…、悪魔と運命を共にしていたような私たちを救うために、イエス・キリストを遣わしてくださいました。何と、イエス様は、自らの命を犠牲にして、十字架上で、私たちの罪の清算をなしてくださいました。だから、イエス様は、十字架上で、こう祈ってくださいましたよ、『父よ、彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。』(ルカ 23:34)って…。イエス様の願いは、罪を犯した私たちが、自分の犯した罪に気付いて…、その罪の赦しと与えられることにあったのです。神様をあざけり…、神様を無視し…、「自分には神様なんて必要ない！」なんて言っていた私や皆さんのために、イエス様は自らの命を犠牲にしてくださったのです！

そのイエス様を信じ受け入れた者に、神は、『神の子ども』(ヨハネ 1:12)としての特権を与えてくださいました…。滅んで当然…、自らの罪の故に裁かれて当然の私たちを、神様は尊いイエス・キリストの命と引き換えに救ってください、神の子どもとしてくださったのです。

そして、今も神様は、私たちを守り、導いてくださっています。例えば、教会の中の様々な交わりを通して…、あるいは、皆さんの内に与えられた聖霊なる神様を通して…、そして何より、このみことばを用いて、神様は実に様々なことを教え、私たちを導こうとしてくださっています。…だから、私たちがみことばを学ぼうとし…、みことばに従おうとするのです。

少し前置きが長くなりましたが、それでは、今朝与えられたみことばを見ていきましょう。今日のみことばをお読みいたします。どうぞ、今日の聖書箇所である、エペソ 5:15-21 をご覧ください。そこには、このように記されています。

<エペソ 5:15-16>

15 そういわずから、賢くない人のようではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、  
16 機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。

今お読みしたみことばから、しばらく…、私たちは、神様の目から見た、賢い人物とは、一体、どのような歩みをするのか？ ということを学んで参ります。そうすることによって、私たちも、神様の前に賢く…、より価値ある、祝福に満ちた人生を歩んでいきたいと思うわけです。

## I・注意 深い歩み！ (15-16 節)

一体、どういった歩みこそが…、神様が喜んでくださり、神様が賢いと評価してくださるのでしょうか？ ⇒ 今日のみことばが教えてくれているのは、注意深い…、慎重な歩みです。神様は、私たちが、いい加減な判断でもって…、適当に、好き勝手に生きていくことを、決して喜んでくださいません。

これは、実際にあったことなのですが…、ずっと以前、ある信仰歴の長い婦人の方にこんなことを言われたことがあります。「聖書には、『16 いつも喜んでいなさい。… 18 すべての事について、感謝しなさい。…』(1テサロニケ 5:16-18 の抜粋)って、あるじゃないですか。だから、私は、聖書の教えていることではなくて…、自分がしたいと思うことしかしません…。だって、神様は、私のことを愛してくださっているのだから、私に対して、嫌なことをせよ！ とはおっしゃらないと思います…。」

実は、このご婦人は、何か具体的な罪を犯しているわけでもないご主人のことを愛することができず、私たちが、「神様のみこころは、あなたが、ご主人を愛して、そのご主人に従うことですよ…」ということを話し続けたにも関わらず、このようにおっしゃって、「私は、主人を愛したくありません！ 神様のみこころにも従いたくありません！」とおっしゃって、その主張の途中で、今のような意見をおっしゃられたわけなのです…。

でも、皆さんはどう思われます？…この方がおっしゃることは、みことばの正しい理解でしょうか？⇒違いますでしょ！明らかに、みことばの間違った解釈です！そのご婦人が言われたことは、明らかに聖書の文脈を無視した…、神様のみこころを無視したような…、恐るべき私的解釈です。だって、その方が引用されたみことばの前後…、例えば、すぐ直前の、I テサロニケ 5:15 には、こうあるからです。『だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行うよう務めなさい。』とあるからです。つまり、「悪ではなく、善を行ないなさい！」と、みことばは教えます。

また、そのすぐ直後の、I テサロニケ 5:19-22 には、こうもあります。『19 御霊を消してはなりません。20 預言をないがしろにしてはいけません。21 しかし、すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。22 悪はどんな悪でも避けなさい。』とありますでしょ？…御霊なる神様は、私たちの内に居て…、私たちがなすべき正しいことをできるように助けてくださいます。ここで言われている『預言』というのは、みことばのことです。みことばをないがしろにしてはいけません！みことばに従っていきなさい、ということです。その後で教えられてあることは、何が本当に良いことで、神様に喜ばれることなのか、しっかりと見極めて、その上で、本当に良いことだけをして…、悪はどんな悪でも避けなさい、と教えられてある通りです。

どうか、前の画面に出てくる II ペテロ 1:20-21 のみことばをご覧ください。『20 それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。21 なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。』⇒皆さんも、よくご存知の有名なみことばです。

実は、このみことばは、文法的&文脈的な観点から、「聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはいけません。」と訳すべきかも知れません。…でも、それであっても、大きくは変わりません。私たちは、せつかく、神様が与えてくださったみことばを、私たちの好き勝手に理解したり、勘違いしたりすることがないように、よくよく注意しないといけないのです…。

一体、どうしてなのでしょう？…どうぞ、II ペテロ 3:16 をご覧ください。そこには、こうあります。『その中で、ほかのすべての手紙（＝聖書に収録されてある、パウロが書いた手紙のこと）でもそうなのですが、このことについて語っています。その手紙の中には理解しにくいところもあります。無知な、心の定まらない人たちは、聖書の他の箇所の場合もそうするのですが、それらの手紙を曲解し、自分自身に滅びを招いています。』⇒神様からのお言葉である聖書と、一般の書物とは、様々な点においても…、また、根本的にも違います！何故なら、聖書理解の違いや勘違いは、その人に、『滅びを招く』…、つまり、その人の永遠を左右するような「大問題」であるからです！

ですから、私たちは、それが決して完全ではなくても、極力、そういった間違った解釈や理解に至ることのないように…、慎重に、聖書のみことばを学んでいく必要があるのです。

### ●『賢くない人』の 歩み とは、どのようなものなのでしょうか？

それでは、もう1度、今日のみことばにお戻りください。まず、ここ、エペソ 5:15 で言われている、『賢くない人のよう』な歩みとは、一体、どのような歩みなのでしょう？…実は、そういったことについて、パウロは、もう既に話してくれています。だから、ここ 15 節の初めには、『そういうわけですから…』とあるのです。じゃあ、どういった歩みかと言いますと、それは、私たちが、エペソ書の4章…、特に、エペソ4:17以降で学んだような…、異邦人…、つまり、まだ神様を知らない者たちの歩みのことなのです。

どうして、そういったことが言い得るのかと言いますと…、少し前の、エペソ 4:17 で、『異邦人がむなししい心で歩んでいるように歩んではなりません。』と、パウロは注意するわけでしょう？そして、どうぞ、その次の 18 節に注目してみてください。『彼らは、その知性において暗くなり、彼らのうちにある無知と、かたくなな心のゆえに…』とありますでしょ。①知性が暗い…、②また、無知…、③そして、かたくなな心…、これらは即ち、愚かということと、ほとんど同義語じゃありません？

まあ、それだけではなく、ここまでの話の流れを見てみると、ここで言われている、『賢くない人』と、『賢い人』というのは、まず間違いなく、未信者と信者を表わしているというのは、明らかですよ？

それだけではありません。もしも、私たちが本当の神様を知った後も…、かつての、救われる前のような歩みをするのなら…、それは愚かであり、神を恐れない者の歩みでもある、と言うのです。何故なら、例えば、詩篇111:10のみことばは、こう教えてくれています。『【主】を恐れることは、知恵の初め。これを行う人はみな、良い明察を得る。主の誉れは永遠に堅く立つ。』⇒本当の知恵…、神の前に価値ある人生の始まりは、まず、私たちの造り主であられる神様を知ることです！…そうして、その次は、その神様を、正しく『恐れること…』から始まっていく、と聖書のみことばは教えるのです。

つい先週も引用したみことばですが…、どうぞ、マタイ 5:13 をご覧ください。『あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。』…皆さん、ここで、『塩が塩けをなくしたら…』という表現のところに、「効き目を失くす」という意味のギリシャ語である、「モーライノー」(μωραίνω)という言葉が使われているのですが、この言葉には、他にどんな意味があったか、覚えておられますか？

…どうか、皆さん、ローマ 1:22 をご覧くださいませ？そこには、こう記されてあります。『彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、』⇒皆さん、さっき言いましたように、ここで、マタイ 5:13 で使われていたのと同じ、「効き目を失くす」というギリシャ語が使われています。…それが、ここでは、『愚か(な)』と訳されてあるのです！…つまり、神様によって救われて…、『地の塩』とされたはずのクリスチャンが、地の塩としての働きをしないのならば、それは、「実に、愚かである!』というわけなのです！

良いでしょうか、皆さん…。確かに、有り得るか有り得ないかと問われると、有り得るのかも知れませんが、しかし、神様によって、『地の塩、世界の光』(マタイ 5:13-14)とされた、私たちクリスチャンが、せつかく、神様から与えられた性質や役目を発揮しないで…、また、神様から託された務めを全うしようとしなくて、生きていくのなら…、それは神様の目から見た時に、「愚か」としか言いようがないのです！何故なら…、そこには、何の価値ある実も結ばないからです。また、私たちが、エペソ 5:19 以降で学ぶような…、せつかく、御霊なる神様が私たちの内に結んでくださるような祝福も、御霊の実も、そこには無いからです…。

### ●『賢い人』とは、どのような人 のことなのでしょうか？

じゃあ、それとは逆に、『賢い人のよう』な歩みとは、どういったものか、皆さんは分かってくださいませよ。⇒それは、「みことばに従う生き方」のことです。先程見た、詩篇111篇のみことばを引用しながら言うなら…、「主を恐れる歩み」のことです。

だから、イエス様も、「山上の説教」と呼ばれるメッセージで、このような分かりやすい例え話をしてくださったんじゃないですか…。マタイ 7:24-27、『24 だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。26 また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。』って…。

⇒ね！実は、このみことばも、つい2週間前に引用したみことばですけれども…、でも、ここで、イエス様が、今日のテーマと同じように、「賢い」とか「愚か」なんていう言葉を使って、分かりやすく説明してくださっているのだから、どうしても引用せずにはおられませんでした(笑)。

皆さんは、このみことばを、もう何度も聞いてくださっているはずですよ！…どうぞ、今読んだ 24 節と 26 節に記されてある、『わたしのこれらのことばを聞いて…』という部分に注目してください。実は、ここでイエス様が説明してくださった賢い人も、また、愚かな人も、両方とも、イエス様のみことばを聞いているのです！その違いは、その聞いた教えに従おうとするかしないか、のどちらかですよ！…残念ながら、愚かな者は、イエス様のお言葉を聞いていながら、それを行なおうとはしませんでした。だから、雨が降って洪水が押し寄せてきた時、その者は、大変な被害を受けてしまいました…。ちょうど、この例え話の直前で、イエス様が教えてくださったように、ここで言われている賢いか愚かかという違いは、救われているかどうかを分かりやすく表わしています。

果たして、皆さんは、聞いたみことばを実践しようとする「賢い者」でしょうか？…それとも、聞いたみことばを、そのまま、実践しようとはしないで、永遠の裁きに下ってしまうような「愚かな者」でしょうか？どちらでしょう？

どうぞ、今度は、**Ⅱテモテ 3:15-17**のみことばをご覧ください。『15 また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。』とあります。神の知恵とは、一体、どこにあるのでしょうか？⇒(聖書を持ち上げて)この…、みことばですよ！…ですから、今日のみことばが教えてくれている、『賢い人』とは、みことばを愛し…、そのみことばに従っていこうとする人のことなのです！

#### ●「よくよく注意する」とは、具体的に、どうする ことなのでしょう？

実は、今日のみことばの 15 節を、よく観察してみると、ただ単に…、「賢くない人のようにではなく、賢い人のように歩んでいきなさい…」ということが教えられているのではなく…、『賢くない人のようにではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し…』なさい、と教えられてあることに気付いてくださいますか？

ここ 15 節にある、『よくよく注意して…』と訳されてあるギリシア語の言葉(βλέπω)は、「よく注意する」という意味以外では、「見る、認識する、注意する、考慮する、警戒する…」などの意味で、普段以上に注意を払うということです。「果たして、自分の歩みが賢い者のようなのか、あるいは、賢くない者のようなのか、しっかりと吟味しなさい！」ということです。

皆さん、覚えてくださっていますか？…そう言えば、**Ⅱコリント 13 章のみことば**だって、『あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。…』(Ⅱコリント 13:5a)ということをお教えてくれますよ？…それと同じことですよ！

でも、一体どうやって、そんなことができるのでしょうか？⇒当然、その判断材料は、みことばしかありません！私たちは、このみことばと照らし合わせて…、果たして、自分の行動や選択が…、あるいは、自分の優先順位が正しいものかどうかを判断していくのです。

だからこそ！何度も言いますように、私たちは、しっかりと聖書のみことばを学んで、そこから、神様のみどころがどういったところにあるか、その真意について学ばないといけないですよ！…と言いますのは、私たちが、聖書のみことばを学ばないで…、つまり、神様のみどころを知らないで、どうやって、今の判断が、賢いか賢くないか、判断できるのでしょうか？…そうじゃありません？

#### ●「機会を十分に生かして用いる」とは？

どうぞ、続く 16 節をご覧ください。『機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。』とみことばは教えます。…ここで、『機会』と訳されてある言葉(καιρός)は、「時間」とも訳すこともできる言葉が

使われてあるのですが、どちらかと言うと…、この言葉は、単なる時間を表わすよりも、「(ふさわしい)時期、好機、頃合…」というような…、チャンスを表わすような言葉だと言い得ると思います。

パウロは言います…、今は、『悪い時代だからです』って…。確かに、私たちが、エペソ 2 章で学んだように、現代の、この世の中は、悪魔が猛威を振っています…。悪魔が、この世を、一時的に支配しているのです！そんな悪魔に、大勢の人たちが従ってしまっています。つい最近も、私たちが学んだように…、かつての私たちも、悪魔に従って…、積極的に暗闇を作り出して、とみことばは教えるわけです。

でも、そんな時代だからこそ…、私たちは、よく周りを見て、機会を逃すことがないように、みことばを實踐していかないといけないのです。ここ 16 節でパウロが言っている、『機会(=チャンス、頃合)を十分に生かして用いなさい。』ということは、私たち個人個人に対して、例えば、大伝道集会を開きなさい、というようなことではありません。もちろん、そういったことがいけないというつもりは、さらさらないのでありますが…、パウロがここで私たちに命じている(『生かして用いる』と訳されているのは、『ἐξαρπάξω』の命令形)ことは…、私たちがこれまでに学んできたような…、神様の性質を表わしたような…、良い行ないを實踐していきなさい、ということじゃあないでしょうか？

つまり、私たちがこれまでに学んできたように…、①偽りではなくて、常に真実だけを語っていきなさい！②怒り続けるのではなく、赦すことを実践していきなさい！③盗むのではなく、むしろ、人に施していきなさい！④悪い言葉ではなく、人の霊的成長をうながすような言葉を発していきなさい！⑤無慈悲ではなく、親切をもって、人と接していきなさい！⑥不品行ではなく、聖さを追い求めていきなさい！

そういったような…、みことばがはっきりと教えてくれているような実例を、実践していきなさい！ということです。これらはいずれも…、神様の喜んでくださるものであり…、私たちの救い主であられるイエス様だって、私たちに示してくださった模範でもあるでしょ？

しかし、確かに、この当時も、また、現代も悪い時代です。2000 年前の、この当時もそうだったでしょうけれども、現代だって、多くの問題が山積しています。…と言いますのは、ますます、聖書的“でない”考えや価値観が主流になりつつあるからです。…例えば、残念なことに、現代では、18 世紀、19 世紀頃から唱えられてきた、進化論という考えが、事実であるかのように信じられ…、多くの人たちは、自分がこの世に生まれ…、今、自分が生かされている根拠を見付けることができないでいます…。実に、多くの人たちが、自分たちは偶然によって…、自然に生まれてきたのだと考えます。自分を造ってくださった神様の存在を認めることがないのです…。

少し語弊があるかも知れませんが…、それでも、まだ、偽りの神様でも信じていれば、人々は何かを恐れます…。悪いことをすれば、神様をご覧になって…、いつか、きっと裁きを受けると感じます。しかし、今は、それさえも、失われつつあります…。人々は、ますます、何者をも恐れられないような、傲慢で、愚かな存在に成り下がりがつあるように、私などは思いますが、皆さんはいかがでしょう？

しかし、先程見た、詩篇 111 篇のみことばは、こう教えてくれています。『主を恐れることこそが、本当の、知恵の初めである』って…。「そういった人は皆、良い明察を得る。」…つまり、真理を見出す、ということです！まさしく、そういった者にこそ、「主の誉れがある…」、つまり、神様からの祝福があるのです。

#### <励ましの言葉>

どうぞ、皆さん。最後に、もう1度、今日のみことばに戻っていただきまして…、その 16 節で、『機会を十分に生かして用いなさい。…』というところに注目してみてください。ここは、「時間を十分に生かして用いなさい」とも訳すことができるとお話ししました…。ひょっとしたら、教会の中には、「私には時間が無い…」とお考えの方もいらっしゃるかも知れません。例えば、クリスチャンでない方々は、日曜日をフルに使

えるし、私たちクリスチャンのように、奉仕にかかる時間や労力もないからです…。確かに、私は、教会に  
来られている多くの方々が…、神様を愛するが故に…、忙しい中であっても、多くのものを犠牲にして教  
会に来られていることを知っています。

しかし、私たちクリスチャンは、そういった一般の方々以上に、時間や機会を無駄にすることなく…、生  
きていくことができるのです！何故なら…、私たちクリスチャンこそは、私たちを造り…、生かされている本  
当の理由を知っているからです！未信者の方たちとは違って、私たちクリスチャンは皆、私たちが生かされ  
ている真の目的を知っています。…かつての私たちがそうであったように、神様を知らない人は、私たち人  
間が造られた目的や、真の裁き主であられる神様の存在を知りません。彼らは皆、こんなややこしい…、  
大変な世の中であって、自分のモチベーションだけで、生きていかないといけないのです！

また、それだけではありません。私たちは、主なる神様を礼拝し、主の与えてくださる恵みを、ますます  
知っていくことによって、しっかりとしたゴールを見据えて…、勇気付けられ、励まされ…、毎日を、感謝をも  
って歩んでいけるのです！この…、混沌とした世の中であって、私たちクリスチャンは、本当に価値あるもの  
のために、心血を注いで生きていくことができます！多くの人たちが、不安におびえ…、ある者たちは、  
アルコールや不倫、ギャンブルなどに逃げてしまっているような…、そんな状況であって、私たちクリスチャン  
は、希望をもって、歩んでいけるのではないのでしょうか？

どうぞ、皆さんも、ますます、聖書のみことばを学んでいってくださって、神様のみこころを知っていつく  
ださい。そうして、どうか、今週1週間も、ますます、主を正しく恐れ…、主の素晴らしい御性質を現わす者  
として歩んでいってくださるよう願います…。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていた  
だきます。